

環境目標

取り組みの背景・考え方

Daigasグループは、2024年3月に「中期経営計画2026」を発表し、2050年のカーボンニュートラル実現に向けたトランジション期の貢献とカーボンニュートラル社会への加速に向けた土台構築を進める期間として位置づけ、重点戦略を示しました。

また、2021年6月の「自然関連財務情報開示タスクフォース(TNFD)」発足や2022年12月の「生物多様性条約第15回締約国会議(COP15)」において採択された「昆明・モントリオール生物多様性枠組」を踏まえて策定された「生物多様性国家戦略2023-2030」を参照し、2024年4月に「Daigasグループ生物多様性方針」「Daigasグループ環境方針」の改定を行いました。

これらに基づき、「環境目標」を策定しました。2024年度の活動実績は以下のとおりです。

■ Daigasグループ環境目標・実績 ビューローベリタスジャパン(株)による第三者検証済みです(※が検証対象項目)

分野		項目		目標	目標年度	2024年度実績
気候変動		グループCO ₂ 排出量 ^{*1}		CO ₂ 排出量実質ゼロ	2050年	2,442万トン
				国内:2,702万トン ^{*1} (2017年度比 ▲500万トン)	2030年	国内:2,344万トン (2017年度比 ▲858万トン)
	社会へのCO ₂ 削減の貢献	CO ₂ 排出削減貢献量 ^{*2*}		1,000万トン	2030年	629万トン
				700万トン	2026年	
	自らの事業活動でのCO ₂ 削減	再生可能エネルギー普及貢献量		500万kW	2030年	370万kW
				400万kW	2026年	
		再生可能エネルギー電源比率		50%程度	2030年	30.4%
				30%程度	2026年	
	自社オフィス・社用車CO ₂ 削減率		100%	2030年	50%	
			67%	2026年		
技術開発での貢献	e-メタン社会実装の推進		1%導入	2030年	e-メタンサプライチェーンプロジェクトにおけるFEED詳細検討実施	
			e-メタンサプライチェーンPJにおける最終投資決定	2026年		
	メタネーション技術開発の推進		SOEC パイロットスケール(400Nm ³ /h級)での技術確立	2030年	SOEC GI基金事業第1フェーズを完遂し、第2フェーズの実施計画を策定	
			SOEC GI基金事業第2フェーズ移行	2026年		
資源循環		大阪ガス・基盤会社・ネットワーク会社	産業廃棄物・一般廃棄物 [*]	再資源化率 98%以上	2030年まで毎年	98.5%
			ポリエチレン(PE)管 [*]	再資源化率 100%		100%
			ガスメーター [*]	再資源化率 100%		100%
		関係会社	産業廃棄物・一般廃棄物 [*]	再資源化率 92%以上 ^{*3}	96.4%	
		バリューチェーン		お客さま先や事業活動での使用済み機器等の3Rを推進する		3R推進を継続実施中
		生物多様性		生物多様性への影響評価を通じたリスクの把握と保全の取り組みを推進する		
ガス導管工事における掘削土の再利用促進による環境保全 [*]	導管工事掘削土の再資源化率 99%以上			99.7%		
水資源		水ストレスの影響評価を通じて水リスクを把握し、水資源の保全を推進する			2030年まで毎年	TNFDが提唱するLEAPアプローチに則った分析・評価を実施
		水質汚染の防止		水質汚染に関する環境規制違反0件		水質汚染に関する環境規制違反0件

※1 国内サプライチェーン(スコープ1・2・3)における排出量

※2 2017年度以降にお客さま先や自社事業活動に導入する高効率設備や低炭素エネルギー等により、算定年度1年間にCO₂排出を削減すると推定される効果を算定

※3 バウンダリー変更の影響により、2025年4月に目標値を再設定